夕刊
磐城新聞
五月九日發行
（日曜祭日翌日休刊）

臺灣だより

青木淳

いろ／＼な用件を帶びて祇園のさくらが三分通り咲き初めた頃、京都を出て十日の正午神戸出帆で臺灣に來ました。船の中にまる三日島の影島の姿さへみられない。海又海の二日をすごして漸くついたのが基隆

藍色した、死んだやうな靜かな海に、赤い船、苦力のかぶる、とがつた笠、私はすぐ臺灣に來たなあ！と感じた

汽車にのると、車窓から見ゆるあらゆるものがめづらしい、名も知れぬ楊が灰白く通ふ往還に並木の役をつとめ、大きく葉張つたシダが一間半も高く茂つてゐる。至る處竹が茂つてゐるが內地の竹とは何かとげとげしい。訊いてみるとかれは刺竹といふのだといつてゐた

もう稻も青々として、長い霖雨がふらない中にも一抹の涼風をはらんでゐるのも目新らしかつた。基隆まで迎へに出てくれたのは臺灣人の陳さんといふ靑年だつた、是非一晩なり泊りなさいといふので臺北に着くなり、バスに乘つて陳君の家に行く。陳君の家は、市內とはいひ乍ら市外の感じのする處で、家族三十人以上もある豪家であつた。

祖父が七十三才で漢學者で、有名な秀才の學位をとつた人といふ。私はその夜この翁さんと筆談を交したら仲々物識りであつた。蘇武李陵の詩などを誦し合つたりしたので、すつかり支那にでも來たやうな氣分であつた

しかし、赤い酒、油ですべてをいためた料理にはすつかり弱つた。何百圓も出して作つた、寢臺に寢せられたのはよいが、スプリングもない板敷になつてゐるので身体がいたいのと、蚊軍の襲來とそれに暑いので仲々眠られなかつた。しかし、あさまだき、淡水川の畔に出たとき何といふ爽快な氣持だつたか

白鷺が群をなして飛んで行く、目の前の青田にも白鷺が降りて悠々と餌をあさつてゐる。黑い大きな燕がとんでゐる。私は臺灣最初の朝を迎へたとき、何かしら異境に來た感を深くした事であつた。春、秋の知らぬ臺灣！四月上旬といふにもう內地の眞夏同樣、ゆかた一枚で汗が流れる

生れつき陽やけ性の私も二三日して鏡をみたらすつかり黑くなつてゐたには吃驚した、これ卽臺灣色である、こつちの內地人をみてもみんなこの臺灣色にそまつて、どす黑いいやな色だ

磐新推薦歌

小山田滋選

獨活の味覺

田中顯介

○胡麻合の獨活の味覺はさり／＼と春の物なり嚙みしめて食ふ

○草花の肥料にやりし小鰯をプンと臭はす初夏の風

○朝顏の種を蒔きたる庭隅の彼所ここらに糠水をやる

○この頃のさくら並木は淸々し朝日をあびて坑內に入る

○粉炭に荒める顏を映しつつ風呂の鏡にニキビをしぼる

○かる／＼と音も春あけ貯炭場の構內深く空車入り來たる

鋪道、路

瀧田七郎

生活の鋪道を步み疲れて

峽谷の春

渡邊何鳴

四月廿九日天長節祝日、小閑を得て夏井川溪谷に遊ぶ、春漸く闌なり、卽ち低徊暫時、數章を得たり。

○靜けさやたゞ一本の峽櫻

○老鶯やけぶれるごとき峽の樹々

○老鶯や溪深まれる瀬々の音

○岩躑躅松にまじりて咲きさかる

○岩つゝじ紫はろかなる樹々の中

○岩床の水の迅さや木の芽峽

○水音のこもれる峽の新樹かな

○山吹やまたあらはれし鯇釣り

○薫風やゆらぐ釣橋踏みわたる

高橋蒼天

○水上の巖大いなる新樹かな

○老鶯や山の峽間の發電所

○岩躑躅松を交へて咲きつゞく

○梨の花谷へなだれて咲きつゞく

○仰ぎみる檜の若葉の明るさよ

○つゝじ山巖めぐりて滿白く

○風わたる峽また峽の新樹かな

拈華微笑

◇鐵道納炭が決定して澤山でも無いが卅萬の增收愈々確實となる

◇平町會座にデビユーの面々。一寸面羞ゆさうな處が可愛い

◇女郎買ひ度や錢が無いの形ち、古川改修に五萬圓負擔の內相談

◇慾が多過きて柔ふ足の心配

◇時漸く目に靑葉山杜鵑初松魚の本陽氣

○……○

今日も戻れど
優鬱なさ
心のうつろ。
淋しけど
無業ければ
あゝ！行くよ
戀なき路を
孤獨辿りて。
苦痛けど
學研心の綱も
斷ち切つて
專心に探求む
生活の職業を。
死なねば
悲嘆きも苦惱しみも
胸に秘めて
行かねばならぬ
今の社會の鋪道は。
一九三三、四、二一

社會の今日

5月10日

△幕府建造の西洋型船鳳凰丸始めて浦賀に進水す（安政元）△府藩縣の印章を制定す（明治元）△畫家下村觀山逝く（昭和五）△平町の昭和產業博覽會閉會式△民政黨、議會の威信確立に關する宣言を發す△早大野球部突如六大學リーグを脫退△佛國大統領ルブラン氏無競爭で當選△佛國內閣總辭職（同七）

○衣かへて行く身輕さや町角の、玻璃窓にうつるわが日傘の色　初井しづ枝

幔幕に松の嵐や大矢數　沸茶

講談　劍火無情

(9)　津屋義人作　菅野祐作畫

梅咲く頃（一）

『親分さん、夕、大變……夕・助けて下さいまし』

玉五郎は我家の裏庭の生垣の外に此消魂ましい女の叫びを聞いて、手にした太い銀煙管の雁首を障子の棧に引懸て細目に開けてあつたのをガラリ開け放つた

『ヤア花本の女將ぢやねえか、何事だい其騷さは』

『裏から來て御免なさいましよ、親分のお姿が見ゑたもんだから夢中になつて了つて……何うぞちよいと來て下さいましな』

『何だつて事よ、鍛から締に……』

『慌てちまつて御免なさいまし。あの今朝から例の勤王の志士とかいふ人衆が五人もお登んなすつて、さん／＼騷いで飲んで食つて……イ、エあゝいふ人に飲み倒されるのは覺悟ですが、今度抱へたお絹といふ妓に其中の一人が惡巫山戲した末が、心に從へ、イヤですと言つたが基で、た玉を斬つて了ふ。命が惜しけりや心に從へと、それは／＼難題許り、到頭あの妓も江戸ッ子だんだから、斬れるものなら斬つて御覽なさいと啖呵を切つて了つたんです。さうすると長いのを引拔いてね、外の四人までが同じやうに、刀を拔いて暴れ出したぢやありませんか、八方へ人を走らせましたが役人衆も近頃の志士とか聞くと、逃げるやう外すやうとするので直來ては呉れません、仕方がないから裏傳ひに飛んで來ましたんです何うぞ親分助けると思つて……』

『判つた／＼、事の善し惡しはともかく、急場の事だ直ぐ一緒に行かう』

『マア有難うございます。何しろ五人拔身を提げてゐますんで……あの乾兒衆は……』

『今みんな部屋で手なぐさみをしておる、ナーニ俺一人で澤山だ』

女將は自分から賴みながら、玉五郎一人では物足りないやうな顏をした

玉五郎は胴金の入つた長脇差を無造作にブチ込んで庭下駄の儘で右手に片すそ捲つて垣の外に出て來た

裏道を小半丁來ると花本の竹垣になる、先へ切戸を潜つた女將は

『アラ大變、親分あの通りです、拔身で板前を追駈けてゐます』

『太ゑ野郎だ、怪我をすると可けねゑから、みんな遠に逃げねゑ』

斯う言つた玉五郎はツカ／＼と拔刀の浪士の前へ進んだ

『モシお武家、串戲も程にして置きなせゑ。弱い家業の者を苛めて怖がるのを與にしなさるか知らねゑがもう好い加減に勘辨してやつてお呉んなせゑ』

醉眼朦朧としてゐる彼の浪士は

『ナ、ナ、何だ汝は……弱い者を誰が苛めた、弱い者でも強い者でも不埒を働いたに依て成敗致さうとするのだ』

『ヘイ左樣ですかい、俺ア此結城の町で、こんな水商賣する者の取締……といふと豪勢立派だが、ほんの世話人をしてゐます玉五郎といふ、ケチな野郎でござゑやす。何うぞお腹も立ちませうが今日の所は此玉五郎にお任せなすつては下さいませんか』

『フム見受くる所、其方は長脇差だな、あのばくち打だな、天下の掟を破つて渡世する汝等如きが何う申さうとも勘辨罷り成らんのだ！』

『コリヤア面白い言分だ、成程俺ア掟の裏を行く渡世の者だ。だが勤王の志士でもお正月の獅子でも弱い者いぢめに無暗に人斬り庖丁を振廻しやア、ばくちうちに劣つたお武家だ、サア勘辨成らねゑのなら、此玉五郎が相手だ。オイ矢でも鐵砲でも持つて來やアがれ』

玉五郎の太い聲音は地聲であつた、其聲は離れ座敷に威張つてゐた四人にも聞えたので、バタ／＼と出て來た

『無禮な一言、覺悟しろ』

『素町人の分際で不屆き至極』

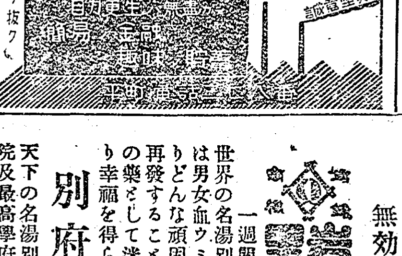
『ソレ斬つて了へッ』

口々に罵つて五人一度に玉五郎へ斬つて蒐つた

『洒落臭え事をするな』

庭下駄を背後へ脫ぎ捨て長脇差の鞘は拂はれた。五人は前後左右から前裁に劔の林と斬り圍む、玉五郎は右を受け左を拂つて、更に前後の敵に衝る出早技は流石江戸で、千葉周作の道場に學んだだけの事はある。

吉田眼科病院



生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三
天水庵華道教授　岡田華悅

內臟外科一般（入院隨意）
外科花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

屋根材の大王（日の出太陽印）便利瓦
耐久力優二十ヶ年以上
壹坪葺上八十錢內外
日本建築紙工株式會社
磐城代理店

銘木
ベニヤ板
天井板
屋根板
內外材
精實勉强御用命を願ひ上ます。
㊌織田材木商店
平町字紺屋町四〇
電話四六〇番

外科全般
內科
小兒科
醫學博士　渡部義夫
女醫　渡部きい
平町田町大通り（電話二七七）
渡部外科
（入院應需）

有給社員招聘
年齡　二十五才以上五十才迄
經驗ノ有無ヲ問ハズ奮闘ノ士ヲ望ム
希望者ハ履歷書送附アリタシ追而面會時日ハ通知ス
有隣生命保險株式會社
平出張所々長　鈴木健司
平町大町八番地

淋藥界の最高權威
無効返金（二日間服効なき時は殘藥引かへに全部返金す）
岩里別府淋藥
一週間…赤箱—金五圓　黑箱—金參圓
世界の名湯別府温泉で名高い。岩里家の家傳祕藥は男女血ウミ、コシケ、淋病消渇に奇蹟的効果ありどんな頑固な病疾でも短時日に根治が出來且つ再發することなく注射や他藥で治らぬ諸賢は最後の藥として迷はず……名藥別府淋藥の御服用に依り幸福を得られん事を希望致します。
別府皮膚藥　金三十錢　金五十錢
天下の名湯別府温泉のラヂウム含有の精に各病醫院及最高學府の處方劑集め大成せる皮膚病特効藥であります、たむし、いんきん、みつむし、なます、しらくも等其他皮膚病に卓効あり。
九州別府市鶴乃園　岩里天然堂
平町三丁目北裏通り
代理店　渡邊いと
（特約店募集）

磐城共濟病院案內
院長　醫學博士　石山謙郎
（自宅）電話一二四番
內科　小兒科（醫學博士　石山謙郎　醫局員　佐久間粋）
外科　耳鼻咽喉科　皮徽科（醫學博士　桂重次　醫學士　有馬勇二郎）
產婦人科（醫學士　五十嵐雄二　醫局員　佐久間粋）
X光線科（醫學博士　石山謙郎　技師　工藤慶造）
衛生試驗所（醫學博士　石山謙郎　技師　高後利雄）
藥局（藥劑士　吉本孝平）
△診療時刻　午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず
平町　磐城共濟會
電話六四一番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
（電話一二九）

合服とレイン.コート
御召替は今です。……………………
キツト皆樣の御氣に召す1933の春の新製品を豐富に取揃へ陳列して御座ひます。

新柄背廣	………12.00ヨリ
黑セル背廣	……… 9.00ヨリ
レイン・コート	……… 9.00ヨリ
バーバリー	……… 3.20ヨリ
トレンチ・コート	……… 5.00ヨリ

ふかや洋服店　平電203

數次の接衝を經た上 鐵道納炭愈々決定す
噸五十錢値上げ卅萬圓增收

常磐各炭鑛に於ける今年度の鐵道納炭は鐵道側主張の噸當り四十錢値上げに對し炭鑛側では一圓十錢說を持し其の間可なりの距離がある爲遂に決定せず引續き折衝中であつたが愈々昨八日磐城、入山、古河各社共五十錢內外を値上げする事で決定した、數量は何れも若干の增で前年通り六十萬噸と踏算し約三十萬圓の增收となるわけである

平町青年團長に 柴田德二氏推薦
委員から就任方を交涉

平町青年團では昨八日午後一時からマルトモホールに於いて定時總會を開催、多田井團長以下役員の任期滿了による後任改選の結果團長柴田德二、副團長田町鈴木武雄、紺屋町青天目源一郎、郡評議員薬谷喜太郎、同補員加藤正保、常任幹事鈴木康外一名と決定、直ちに委員を舉げて柴田氏に團長就任を交涉する事になつた

瓢簞から一駒の人選に 野心家連呆然とす
新陣容に一脈の清新味

多田井團長の推薦で滿場一致後任團長に決定した柴田德二氏は今九日多田井氏以下青年團幹部の來訪を受け團長就任を要請されたが考慮の餘局を殘し今明中に確答すると約して會見を終つたが結極柴田氏の就任快諾を見るものと豫想されてゐる尚今春來多田井團長の町會出馬を見越し後任團長の椅子を窺ふ野心家簇出各方面に亘つて可成激烈な暗躍が續けられてゐたが多田井氏の意表外に出た柴田氏推薦は此等野心家を呆然たらしめたもので柴田氏の就任を見た曉は鈴木、青天目兩新副團長と共に一脈の生氣を加ふるものとして期待される

五萬圓を負擔せば 明年度中起工せん
其筋から古川改修の意向

古川改修工事が內務省富永技師及縣遠藤技師の實地踏査の結果漸く實現の曙光を見るに至つた事は既報の如く八日內務省から平土木監督所に工費二十五萬圓中五萬圓を地元で負擔すれば明年度內に起工する旨の通牒あつたので近く關係者が會同協議する事となつた、尚計劃に就ては平町出身の內務省下關土木出張所長金子久治氏に負ふ處少からぬものがあると

射手杉山今朝吉氏 縣大會で最高點
萬丈の氣を吐いて歸る

縣獵友會第十二回クレー射擊大會は六、七兩日福島市協會グラウンドで開催したが縣下二十九警察署管內一署二人宛の射手による優勝旗爭奪團體競技では平支部五十八點を獲得して優勝し個人競技では曩に中村の大會に於て一等、平に於て二等を獲得した內郷村杉山鑛業所主杉山今朝吉氏が滿點の壓倒的成績で優勝し（大會賞）靑銅大花瓶一對白羽二重一疋（縣賞）銀製大カップ（最高點賞）金メダル、白羽二重一疋（團体競技賞）優勝旗一旒金メダル、白羽二重一反の各賞品を獲、地方射手の爲萬丈の氣を吐いて歸つた

△團体競技　一等平支部、二等中村支部、三等白河支部

△個人競技　一等杉山今朝吉（平）二等馬目太平治（平）三等松本傳衛（富岡）

因に滿點の成績を獲たのは本大會創始以來一昨年福島の倉島射手と同氏と未た二人のみであると

高値の掃立增に 桑不足の心配
結局前年より五分減か

意外の高値から養蠶家を雀躍りさせて居る郡下の春蠶は早場である平窪、草野、小川三村では六日から掃立を開始したが平取締支所の調査に依る郡下の桑園反別は千七百二十一町歩で縣の奬勵に基き荒廢桑園を改廢した爲め昨年より百十五町步を減じ中には之の高値を見て後悔して居るものもあり最初一割を豫想された掃立減も大体五分位に止まるらしいので或は桑不足を生ずるではないかと憂慮して居る

櫻ケ岡の春たけなは
花園に妍を競ふ色々

櫻ケ岡に香る磐女校の花園は今が酣だ！赤、しぼりのチューリップやアルメリヤ眞黃のイチハズがその花間を點綴して居れば馥郁たる香を放つてパンジユがその傍に咲き誇つて居る一方農園も擔任志村教諭指導のもとに此程人參、時無大根、越瓜その他パンパード（西洋南瓜）約三十本の苗を植え正服姿の女學生達の手に

四倉町會
諸重要問題附議

四倉町會は昨八日午後一時から開催、七年度災害復舊工事費として產業組合中央金庫より七千六百圓を借入れる事に決し引續き小學校增築費一萬九千圓の起債方法及町長選擧問題を附議する筈であつたが尚愼重に考慮する必要ありとして小學校增築費は十四日午前九時から町長問題は二十三日午後一時から再開協議する事に決し三時半散會した

磐中入國記（二七）
赤井嶽男記

第十一回生の卷 M

◇發火演習の記事

（承前）—忽ち見る左方の水田を疾驅して歸來せる斥候あり、其の齎せる報告は曰く『前面約二百五十米、內郷村字小島の高丘に約一小隊の敵を認む』

此の報告を聞くや大越小隊長の尨大なる体軀、忽ち一閃し尖兵を率ゐて長驅御厩村落に入れり

時突如として耳を劈く銃聲、一發、二發又一發、戰ひの幕は今正に彼我の斥候によりて切つて落されたり小島高地に據れる敵は我尖兵近づけるを知るや、猛烈なる砲火を浴びせかけたれば進むに進まれず、流石の南軍稍々逡巡の色あり、前兵の到るを待ちて漸く攻擊を開始したれども敵は地の利を占めて頑強に抵抗し容易に退却せず第一小隊の苦戰は玆に絕頂に達し後方部隊に傳令飛ぶ事頻りなり時計は正に十時四十分を示す

時に前衛本隊は漸く御厩に達す、その先登に威容堂々たる將校はこれ中野中隊長。傳令の報告を聽きつ、悠揚迫らず、鋭き眼一轉して美髯に隱るゝ唇徐ろに動くや『第一小隊は武力を以て小島高地を奪取すべし』と儼然たゞ一語、敢て又他を云はず、傳令は一礎踵を返すや一散に馳せ去りぬ。

此の命令に接したる第一小隊は今はこれ迄とや思ひけん、決然着劍し喊聲天を衝いて死物狂ひに突擊すれば敵は俄に狼狽し退却、退却、又退却遂に要害を捨てて北方に遁走せり

笑止やな背後を見せて逃る敵の見苦しさ、何條その儘逃がすべき、背後に一擧釣瓶落しの一齊射擊を加ふれば死傷算なく蜘蛛の子の如く亂れ亂れて逃げるわ逃げるわ。

更に目を凝らして敵の逃げ行く彼方を見れば、見よ見よ。前面約七百米、平町の一角、藥王寺臺の中腹に密集せる一隊、正にこれ北軍の支隊に非ずして何ぞやとゞふ折しも忽ち見る、樹林の間に白煙パツと上るや殷々の音、天地を振動して敵の砲兵は其の野砲約二門を以て砲擊を開始し、小島の高丘は刻々危險に陷り大越小隊の死傷算なければ遂に高丘を捨てゝ前面水田に散開するの止むなきに至れり

時恰も良し、後續部隊の至るあり、吉澤寅吉の率ゐる第二小隊は中央に、中川貞治郎の率ゆる第三小隊は左翼に、各々忽ち散開し絃に全線爭つて猛烈なる射擊をなせば渦き上る硝煙は暗澹として天日爲に暗しとや云はん。（此項未完）

入遠野村議
殆と全部が新顏

入遠野村議改選は昨八日執行左の如く決定した

蛭田政道、小澤淸一、鈴木政一、鈴木福太郎、大谷義次、佐川五郎、永山忠一、小澤安太郎（再）、上遠野朝衛、圓通正直、折笠源作、平子吾幸

水鐵管內事務打合

水鐵管內各驛主任級の事務打合會は昨八日午前十時から住吉屋本店に開催、水戶運輸事務所長中村嘉平氏外五十一名出席終つて懇親會を開いた

皐月の松ケ岡に 色彩の總進軍
今夜から躑躅に點燈

繽紛たる花吹雪の風情を最終として行樂の三春は逝いた松ケ岡に今年も『三百餘種二千餘株』の名代躑躅が本格的美觀を現して來たので町では愈々今九日夜より例年通り百三十餘個の雪洞と照明三個の裝置に依つて人氣の沸騰を劃するとあれば晝は皐月晴れの下に夜は照明に映えて第一公園丘上には今年も亦濃艶な色のオンパレードを現出する事であらう

井上氏重任
小學校保護者會長

平三小學校保護者會理事會は昨八日午後一時から第一校に開催

會長井上貞治郎、副會長大嶺庫の兩氏を擧げた、尙評議員は來る十五日の同會總會當日選任すると

健康兒推薦

東朝主催全國健康優良兒童表彰會に平第一小學校では尋六田中忠太郎（滿十二年）さんを縣の豫選會に申請した

忠太郎さんは北目町芳太郎の五男で身長百五十一糎、体重四十二、八瓩、胸圍七十二、五糎で十米走は七秒五分の一、走幅跳は三米七十五のホープマンであると

小作料は何れへ？
迷ふた結果調停依賴

玉川村大字岡小名中野喜傳治は同村安立寺の田を四十年前から作つて居たが三十七、八年前當時の波木井住職死亡後養子瀧次郎が後繼となると同時に寺所有の財產を處分したので檀家の者が憤り十三年間も訴訟繼續その費用に檀家も少からず窮迫して居た時小名濱町柳內兵右エ門の援助に依り勝訴以後寺の財產は柳內への報恩して保管を依賴して居たが一昨年六月渡邊文榮氏住職となり此程七年度分小作料六石五斗を請求されたが喜傳治は何れへ納むべきが正當なるか昨八日松野尾辯護士を代理人として平區にその調停を提起した

磐女優勝旗
圖案完成近く註文

磐女校では來る秋季大運動會當日の郡內女生四百米繼走に今年からは優勝旗を授與すべく過般來圖案擔任酒井教諭が圖案作成中だつたが此程完成近く註文する段取りとなつた

横山新署長
昨今兩日各方面へ 著任挨拶歷訪

平署長に榮轉の横山宗延氏は既報の如く昨八日午後零時五十分着の磐越線列車で署員其他多數の出迎えを受けて着任、同日より今九日へかけ官公衙、學校、會社新聞社其他各方面を歷訪着任の挨拶をなした

嬰兒を抱へて 旅費を哀願
哀れな寡婦平署へ

宮城縣加美郡中新田町居住栃木縣那須郡那珂村生れ吉田トク（三三）は去る一月中左官の夫と死別以來臨月近い身重を以て近所の洗濯、使走りなどで長男源一（五）と暮らして來たが去月十八日歸鄕の車中俄に產氣つき富岡驛に下車し某木賃宿で出產すると前後して源一に患はれたので黑髮を切つて全快を祈願した甲斐無く伜は其儘病死し落膽の餘り縊死を計つたが同宿人に發見されて果さず生後間も無い嬰兒を抱へ再び歸鄕の途中旅費に困り昨八日平署人事相談所の救ひを願ひ出た

赤十字少年團

平第一校の少年赤十字團は從來尋五年以上高等科の生徒で組織されて居たが此程縣の指令に依り卒業生の希望者にも特別團員として入團を許す事になつた

中野谷雄氏
女婿二名を喪ふた 浩忠老の悲歎

元縣議中野浩忠氏女婿醫師中野谷雄氏は先年來大阪市に於て開業中病氣の爲鄉里鳥取縣西伯郡大幡村の生家に歸臥靜養中老舅浩忠氏及久子夫人其他の手厚き看護も其の甲斐無く去る五日遂に鬼籍に上つた、行年四十九歲

氏は溫厚篤實の醫師として一般の信望を鍾め大に將來を囑目されてゐたが少壯來兎角健康に惠まれず曩に石城の刀圭界を去つて大阪に移轉今日に至つたもので夫人との間に中學四年の長男春郷君を頭に同二年の二男忠君尋常五年の三男春樹君、今年六歲の四男信人君あり若くして四人の遺兒を擁する久子未亡人の悲歎もさる事乍ら過ぐる年後嗣惣吉氏を喪ひ今再た相ついで女婿谷雄醫師を喪ふた頹齡古稀の浩忠氏の胸中さこそと少からず世上から同情されてゐる、因に葬儀は前記鄉里に於て茶毘に附し遺兒諸君の學業都合により來暑中休暇中適當の日をトし平町大寶寺に於て告別式を執行すべく尚は浩忠老は之亦近來微恙勝ちで目下五丁目井上縣議方に逗留中である

平區裁判一束

竊盜。　平町鎌田町五十番地荒川仙次郎方使用人水戶部忠吾（一九）假名—が一昨年八月頃より昨年十二月初旬迄の間に約十數回に亘り主家の饂飩其他約四十箱價格五十圓を去る一月中旬頃白米約二斗七升玄米約三斗價格十圓四十錢を、去月二十五日鹿島村大字上矢田字戸石十四鴉沼廣方より現金百五十圓入の財布を竊盜した住居侵入竊盜事件の公判は昨八日午後一時から關口判事係り三堀檢事立會開廷少年犯に依り一年以上三年以下の懲役を卽決言渡された。

詐欺。　双葉郡浪江町大字櫟現堂字上繩町十四前科三犯西牧得藏（四九）が昨年十月五日田村郡御木澤村大字擔橋本文四郎方に到り局から二百圓の爲替を受取つて返濟すると出鱈目を並べて五十圓を騙取し更に去る一月八日双葉郡大野村下野上字廣谷肥料店鈴木シノに酌婦を周旋すると五十圓後又一名周旋するとて三十圓を騙取した事件の公判は來る十六日午前九時から竹內判事係りで開廷すると

平町慶弔錄

△出生

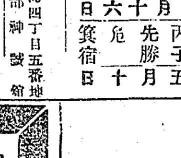
六間門五與津昌長男昌夫

柳町一三加藤際四郎二女嘉子

△婚姻

茨城縣多賀郡助川町助川一、五五八綿引千代丸（三一）

鎌田町六六鯨岡はな（二六）



舊四月十六日　水曜　丙子　先勝　危　箕宿　新五月十日

諸判定廳舘

東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠舘

▲一白の人　諸事捗れども新規の事に手を出さゞるが吉▲二黑の人　銘刀もさびを生ず平生の手入れが肝要の如し▲三碧の人　人の力を當てにして不快の念を生ずるの日▲四綠の人　近道をせんとして却て難路を辿るが如き日▲五黃の人　優勢に逸りて輕卒に流るれば不和を招かん▲六白の人　諸事沈滯なれば焦慮を戒しむ▲七赤の人　急ぎて破れんより遲くも成功を期すべき日▲八白の人　氣運盛大なり耐忍努力は功績も大なる吉日▲九紫の人　烈風に逆ふ小雀の如し巢に在るが至極安全

名湯のお知らせ

神經痛。リウマチス。婦人病。其他此ノ名湯ニ一週間以上入浴スレバ全治スルト云フ其ノ効無二ノ礦泉デス、四倉驛ヨリ十町自動車ノ便アリマス。

宿泊料一泊壹圓……（三食付）

眺望ノヨイ　礦泉旅館　寅の湯　四倉町新町戸ノ內九

產科　婦人科　花柳病科

午前宅診　午後往診　入院應需

井阪醫院　平町田町（元合津醫院跡）　電話五五九番

夜間診療

胃腸　梅毒

內科　十二指腸虫病　專門

淋病　皮膚病　婦人病　專門

松村內科皮膚科醫院　（平町南町電話一〇七番）

小兒科。內科

特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。

滯留隨意

平町。ねずみ坂　渡邊醫院　電話一六一番

貸切ノ御用命ハ

イツデモ眞先（マツサキ）ニ（松崎ニ）

三九二（ミクニ）タクシーへ

（デンワ、ミクニ）

中野谷雄儀豫て病氣中の處藥石効無く去る五日鄉里鳥取縣西伯郡大幡村の生家に於て永眠致し候に付此段生前辱知の諸彥に謹告候也

追て葬儀は今夏中平町大寶寺に於て告別式執行可致、期日確定の上は更めて御報可申上候

昭和八年五月九日

大阪市外吹田町泉町三、二〇四

喪主　中野憲次

男　中野春郷

父　中野浩忠

外親戚一同